

## 札幌市立南の沢小学校の取組

### 1. 研究のねらい

本校では、「大自然とともに生き」を教育目標として掲げ、冬季には「雪」を活かした活動（冬の滝野宿泊学習、スノーシューによる自然観察等）を積極的に実施している。これまで三か年に渡って、「雪を通して北国札幌らしさを学ぶ」をテーマに、札幌らしい特色ある学校教育推進事業の「雪」に関する学習活動研究実践校として、研究に取り組んできた。この取組が「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」の育成に結び付くものと考え、本研究を推進している。これまでの取組をさらに充実、発展させ、深化を図っていきたい。

### 2. 取組内容

#### (1) 「光風園の冬～スノーシューを履いて～」

（4年 さわっ子タイム〈総合的な学習の時間〉4時間扱い）

「光風園」は、本校グラウンドの20倍以上の広さを有する東海大学札幌校舎所有の広大な広葉樹林で、湧水が流れ、エゾリス、オニヤンマ、シジュウカラ、オオウバユリなど、多くの動植物が生息している。本校では、4年生が、年4回、春夏秋冬の光風園を訪れ、四季折々の自然の変化、動植物の様子を観察し、考察する活動を続けている。

最終となる冬は、深い雪の中、スノーシューを履いての活動となる。スノーシューは、昨年度まで、さっぽろ健康スポーツ財団から借用したものを使用していたが、今年度は、札幌市教育委員会の「学校の夢づくり支援事業」の予算が付き、100足を購入することができた。



活動日当日、真新しいスノーシューを履き、光風園に繰り出した児童が、まず目にしたのは、エゾリスらしき小動物の足跡である。木から木へ移動したと見え、小さな足跡が点々と続いていた。足跡の主に出会えた幸運な子もあり、真冬の生物の営みを実感していた。

夏場と異なり、葉がすっかり落ちているので、大木に絡まるツタの様子、鳥の巣と間違えやすいヤドリギの様子をよく見る事ができた。



児童はシジュウカラかヤマガラとみられる小鳥が枝に止まっているのを見かけたが、小鳥は人の気配を察し、遠くへ飛び去っていった。その他、枯れたオオウバユリやツルアジサイ、早くも膨らみ始めている木の芽、とげのついたタラノキなど、冬ならではの発見ができた2時間となった。

児童は、事後にワークシートに分かったこと、気づいたことを書いたり、絵に表したりしてまとめた。



- ・いろいろな足あとがあった。ふんもあった。
- ・虫のぬけがらがあった。
- ・シカのような足あとがあり、谷底に続いていた。
- ・木の周りの雪がとけていた。
- ・エゾリスが3びき走り回っていた。すごく軽々とうまらないうで走っていたからびっくりした。

(2) 「スノーフェスティバル」(1年 生活科 3時間扱い)

例年1年生は、「ふゆをたのしもう」の学習で雪像作りや雪遊びに取り組んできたが、今年度は、保護者参加型授業として、「スノーフェスティバル」と題した取組を行い、冬の楽しさを親子で味わうことができた。

① 雪中宝さがし

保護者が埋めたお宝を子どもたちが探すゲーム。お宝は、人参、木の枝、ジャガイモ、おはじきなど、雪だるま作りに使うアイテムで、一つ見つけるたびに大きな歓声が上がっていた。



② 雪だるま作り

グループ毎に保護者と一緒に思い思いの雪だるまを作った。様々な材料を使ったり、色水で色をけたりして、バラエティ豊かな雪だるまが完成した。

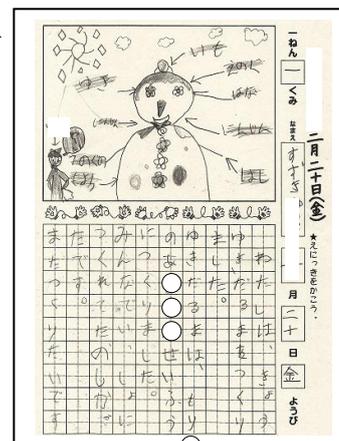


③ 親子チューブリレー

保護者が引っ張るチューブに子どもが乗り、雪山から滑り降りるリレー。途中、チューブから落ちる子がいたり、スーパーマンのような姿勢で滑り降りる保護者がいたり、大きな盛り上がりを見せていた。

事後に、児童は楽しかった思い出を絵日記にまとめ、学習を振り返った。

- ・ぼくたちがつくったゆきだるまのなまえは「バーベキューちゃんまげ」です。そのゆきだるまは、とてもかわいいです。
- ・チューブリレーのさかにのぼるとき、たいようのところをむいていて、まぶしくても上をみていたら、あったかかったです。



### 3. 成果と課題

(1) 成果

4年生の実践は、寒さが厳しい冬でも、生き物が活動し、春に備えた準備をしていることや四季折々の自然の移り変わりを実感することができる貴重な学習となっている。また、地域にそのような自然環境が残されていることに気付き、郷土に対する愛着を育む機会にもなっており、「雪」の学習以外の側面からも、とても有効な活動と考える。また、今年度は、念願だったスノーシューの購入が実現し、4年生以外の学年も使用できるようになった。今回は、3年生が来年度に備え、グラウンド・中庭でのスノーシュー体験を行った。今後、雪の学習だけではなく、冬場の体力づくりとしても計画的に使用していきたい。1年生の実践は、雪を楽しむことに重点を置いた。雪がなければ行うことができない遊びで親子と一緒に楽しむことができ、児童は、より一層、雪に対する親しみを味わえた。

(2) 課題

このほか、「冬の滝野宿泊学習」(5年)、「全校雪ふみ」(全学年)、「雪だるまの高さ大会」(児童集会)など、本校ならではの「雪」の活動に取り組んできた。今後は、これら雪に関わる活動についての全体計画を作成し、学習活動への位置付け、教科のねらいなどを更に明確にすること、マンネリ化に陥らないよう、各活動を見直すことを課題として、より実りある活動を推進していきたい。